

## 平城宮跡 第241次調査

現地説明会資料

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

1993年6月12日

発掘期間 1993年4月1日～

発掘面積 東西63m×南北35m(約2,200㎡)

## I. 発掘調査の概要

駐車場拡張にともなう調査である。調査区は、平城宮東院の北半西よりに位置する。北側に接する現在の駐車場は、これまで2回の発掘調査をおこなっており(第22次・第182次)、木簡・墨書土器の記載や酒甕据付け穴をともなう建物群の存在により、造酒司跡であることがほぼあきらかになっている。

今回調査した第241次調査区でも、酒甕据付け穴をともなう建物群や井戸跡、造酒司関係の木簡などが出土した。

## II. 遺構

## II-1. 遺構の変遷

本調査区では、掘立柱建物10棟、掘立柱塀4条、溝9条、井戸2基などの遺構が見つかった。これらの遺構は、つぎのような変遷をとげている(一部の遺構については省略)。

## (1) 奈良時代前半A1期

奈良時代当初の施設配置。

建物1……6間×2間の南北棟。酒甕の穴なし。

建物2……3間×2間の東西棟。酒甕の穴なし。

溝1……調査区西壁ちかくをながれる幅2mあまりの南北溝。北壁から10m南のところで途切れる。築地塀にともなう溝とみなされ、北端の北側に門がおかれた可能性がある。和銅銭3枚出土。

溝2……溝1の東側をながれる南北溝。水溜りのようなふくらみが2ヶ所みられる。和銅四年[711]と靈龜二年[716]の木簡、また郷里制[715~740]および郷制[740~]の木簡がともに出土している。第22次調査区で見つかった井戸のうち、奈良時代のはじめからつくられていた東側のSE3046の水は、この溝にながれこんでいた。

## (2) 奈良時代前半A2期

奈良時代前半後期に施設が充実していく段階。

井戸1……調査区中央北よりに位置する。この時期は石組方形溝(溝6)をとも

ない、井戸館なし。

建物3……井戸1の東側にたつ5間×2間の南北棟。建物1の建替えか。酒甕の穴なし。柱穴より6721C形式の軒丸瓦(Ⅱ期後半)出土。

建物4……建物3の東側にたつ5間×2間の南北棟。酒甕の穴なし。

建物5……井戸1の西側にたつ5間×3間の南北棟。西庇つき。酒甕の穴あり。

溝3……溝2の東側をながれる幅50~80cmの南北溝。この時期には、第22次調査区で新しい井戸SE3049がつくられ、SE3046とSE3049が並存し、両者の排水溝は合流して溝3にそそぎこんでいた。天平十二年[740]以降の木簡出土。出土土器からみて、奈良末まで存続した。

溝4……井戸周辺の方形石組溝(溝6)からながれこみ、L字形におれまがって溝3にそそぎこむ。井戸1のちかくでは、人頭大の石を縦にならべた石組溝とするが、溝3のちかくでは素掘りの溝にかわる。天平初年の土器出土。

溝5……発掘区の南端で、溝3にそそぎこむ東西溝。

## (3) 奈良時代後半B期

遷都により一度は廃絶した造酒司の施設群が、遷都後、再整備される段階。

井戸2……2重同心円状の石敷と6角形平面の井戸館ができ、周囲に円形の雨落溝(溝7)がめぐる。(井戸2の年代等は未詳)周辺に建物群が配され、奈良時代後半の造酒司の中心的存在となる。

建物6……井戸1の西側に位置する7間×4間の南北棟。東西両面に庇がつく。酒甕の穴あり。

建物7……建物6の南にたつ7間×2間の南北棟。酒甕の穴多数。酒甕の底部がのこるものもある。

建物8……調査区南端に位置する7間×2間以上の東西棟。酒甕の穴が3列もしくは4列整然とならぶ。

建物9……井戸1の東側にたつ7間×3間の南北棟。酒甕の穴なく、梁間3間の大きな建物で、管理棟の可能性あり。奈良時代後半の中心建物。

建物10……調査区東壁にならぶ4間の柱列。南北庇つきの東西棟か。

## II-2. 遺構の特性

遺構についてとくに重要な点を整理すると、以下のようなになる。

①第22次・188次調査で確認された造酒司跡は、本調査区全域にひろがることあきらかになった。現在判明している造酒司の規模は、東西60m以上×南北90m以上で、いまだ南限と東限が確認されていない。宮内官衙としては、たいへん大きな規模をもつものとして注目される。

②造酒司は平城宮造営当初から廃絶期まで存続したが、前半と後半でおおきく構造がかわっている。前半の第22次調査区SE3046・SE3049を中心とする施設配置か

ら、後半の井戸1を中心とする施設配置に変化をとげているのである。

③造酒司の建物配置には、いずれの時期も、上級官衙にみられるような整然とした規則性がほとんどみとめられない。一見ランダムな配置にもみえるが、酒造工程を重視した実用的な空間構成ととらえるべきだろう。

④建物には、どの時期にも、酒甕をともなうものと、ともなわないものがある。前者は酒の醸造・貯蔵、後者は精米などの工場もしくは管理施設とみなされる。管理的機能をもつ施設としてもっとも可能性がたかいのは、建物9である。このほか、酒甕をともなわない建物は、既発掘区の東南方面に集中する。

⑤井戸1は、きわめて特殊な井戸である。第22次調査でみつかったSE3046・SE3049と比較すると、SE3046・SE3049は規模の大きな浅い湧き井戸で、酒の生産に直結したものとみなされるが、井戸1は規模が小さく、生産そのものに大きく寄与したとは考えにくい。その反面、井戸1は、奈良時代後半期に2重同心円状の石敷や六角形の井戸館などの特殊な空間装置をそなえ、建物群の中心的位置をしめるようになる。これらの点を総合すると、酒造生産を主要な目的とする井戸というよりも、造酒司の諸神をまつる祭祀、あるいは大嘗祭などの宮廷祭祀に用いる「聖酒」をつくる前に、役人や職人がきよめをおこなった象徴的な井戸とみるべきかもしれない。ただし、この推定を裏付けるような遺物は井戸1の埋土から出土していない。

### Ⅲ. 造酒司と木簡 [別紙参照]

### Ⅳ. 遺物

#### Ⅳ-1. 木製品と金属製品

井戸1の埋土から、斎串10点、釣瓶1点、横櫛1点、箸2点、折敷底板1点、曲物底板2点などの木器が出土した。このほか整地層および溝から、和銅開珌3点、神功開宝3点、帯金具1点、銅印1点などの金属器も出土した。

#### Ⅳ-2. 銅印と封泥について

造酒司廃絶後の整地層から出土した銅印は、ほぼ純銅製だが、鋳上がりはあまり良好でない。印面の大きさは縦4.4cm×横3.9cmで、高さは2.9cmである。印面には釈読不明の文字または記号がみられ、陽刻か陰刻かも不明だが、後者の可能性が大きい。鈕には一孔をうがつ。

この銅印の用途については断定できないが、唐の長安城大明宮出土の類例などを参考にすると、天皇に献上する酒甕を封印するために用いられた可能性がある。甕に布をかぶせ蓋をして紐でむすぶさい、結び目を木の枠にとおしてから粘土をおしこんで、その粘土に押印したものと推定される。いわゆる「封泥」のための印と考えられるが、さらに検討の余地もある。

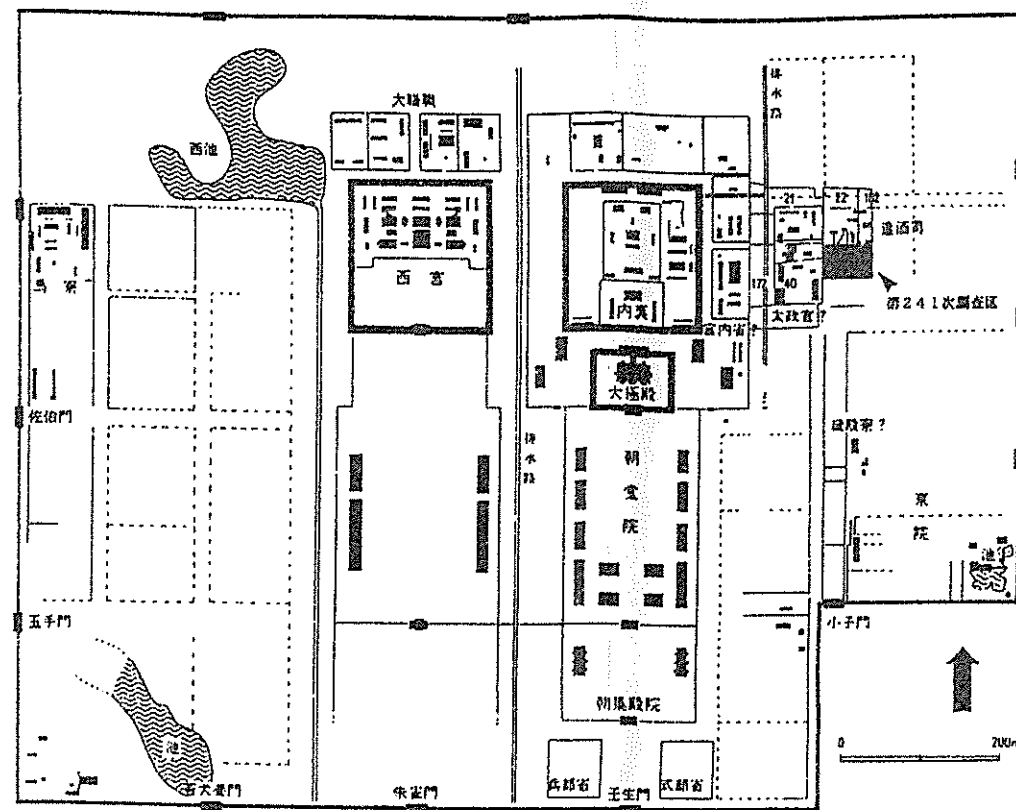


図1 第241次調査区的位置

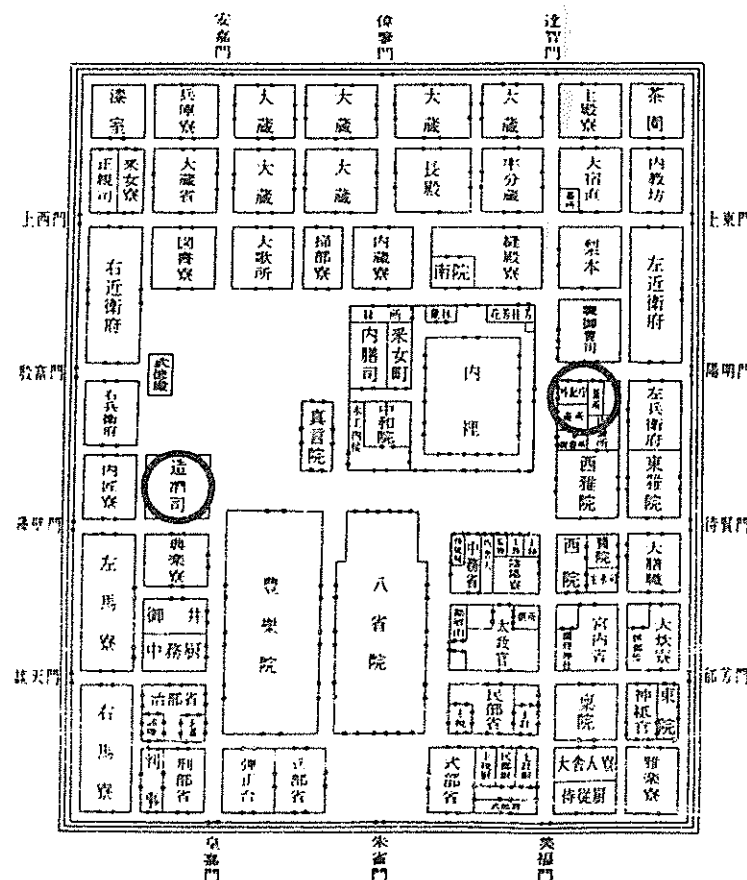


図2 平安宮宮城図

## III. 造酒司と木簡

## I 造酒司とは

## ①組織 (養老令による)

「造酒司 正一人(酒, 醴, 酢を醸くる事を掌る) 祐一人 弐史一人  
 酒部六十人(行簡に供することを掌る) 禊部十二人 置戸一人 酒戸」

## ②酒の種類 (延喜式による)

御酒 御并酒 藤酒 ……畿内の稻

醴酒 三種酒 ……大炊寮から

酒酢 内膳司供御膳菓子齋甘醴 雑給酒 酢 ……民部省の庸米

用途 ○内裏用 天皇など内裏内で飲む酒  
 ○祭祀の献酒 大嘗祭 鎮魂祭などの宮廷の祭りに使われる  
 ○節会用 1/1, 1/16, 5/5, 9/9など朝堂院などで行わ  
 れる宴会で飲まれる酒

## II 造酒司と考える根拠

## ①木簡 「造酒司召」 「酒殿」などの文書木簡

「酒米」「赤米」などの荷札木簡

「白酒」「清酒」などの付札木簡

## ②平安宮の造酒司と東酒殿

## ③特別な井戸と大量の甕の出土

## III 第241次調査の木簡

## ①点数 35点

出土遺構 溝2 (20点) 溝3 (9点) 井戸1 (1点) 溝4 (1点)  
 整地土 (3点)

## ②今次木簡の特徴

○造酒司を裏付ける 1, 2, 3, 9

○木簡の年紀 4, 5, 2, 6, 8

## IV ヘラ書きの甕の銘

「□野伎五十戸甕」

五十戸=サト 甕=ミカ, 大型のカメ

「野伎」を地名とみて「ノギ」「ヤギ」「ヤケ」郷をさがすと10例ほどある。そのうち、延喜式でミカを貢進している国と一致するのは和泉国和泉郡八木郷(岸和田市), 播磨国印南郡益氣郷(明石市)の2箇所。

## 木簡 釈文

(溝2出土)

1 造酒司召 令史 正召 使三宅公子 250.24.3 011

2 丹後國丹波郡大野郷酒米石部足五斗 343.(20).7 031

3 □大辟里赤米五斗 (170).17.6 039

4 ・紀伊國安諦郡縣里辛金打赤兄戸□□  
 ・ 靈龜二年十月 (170).16.6 039

5 □籠 十五斤 和銅四年□□ [四月カ] (120).22.6 039

6 ・丹波國氷上郡忍伎郷朝鹿里 神人黒万呂三斗  
 「麻」□部小虫三□  
 ・ 「七四東□□」 (275).30.5 039

7 ・刑部子君万呂一貫  
 ・ 左大舍人他田人万呂 128.25.2 032

8 ・伊勢國飯野郡黒田郷  
 ・ 加知□ □ 156.24.3 033

(溝3出土)

9 ・海部郷京上赤春米五斗  
 ・ 矢田部首万呂 酒春 (188).29.5 039

(井戸1出土)

10 ・美作国英多郡  
 ・ 白米五斗 (112).17.3 039

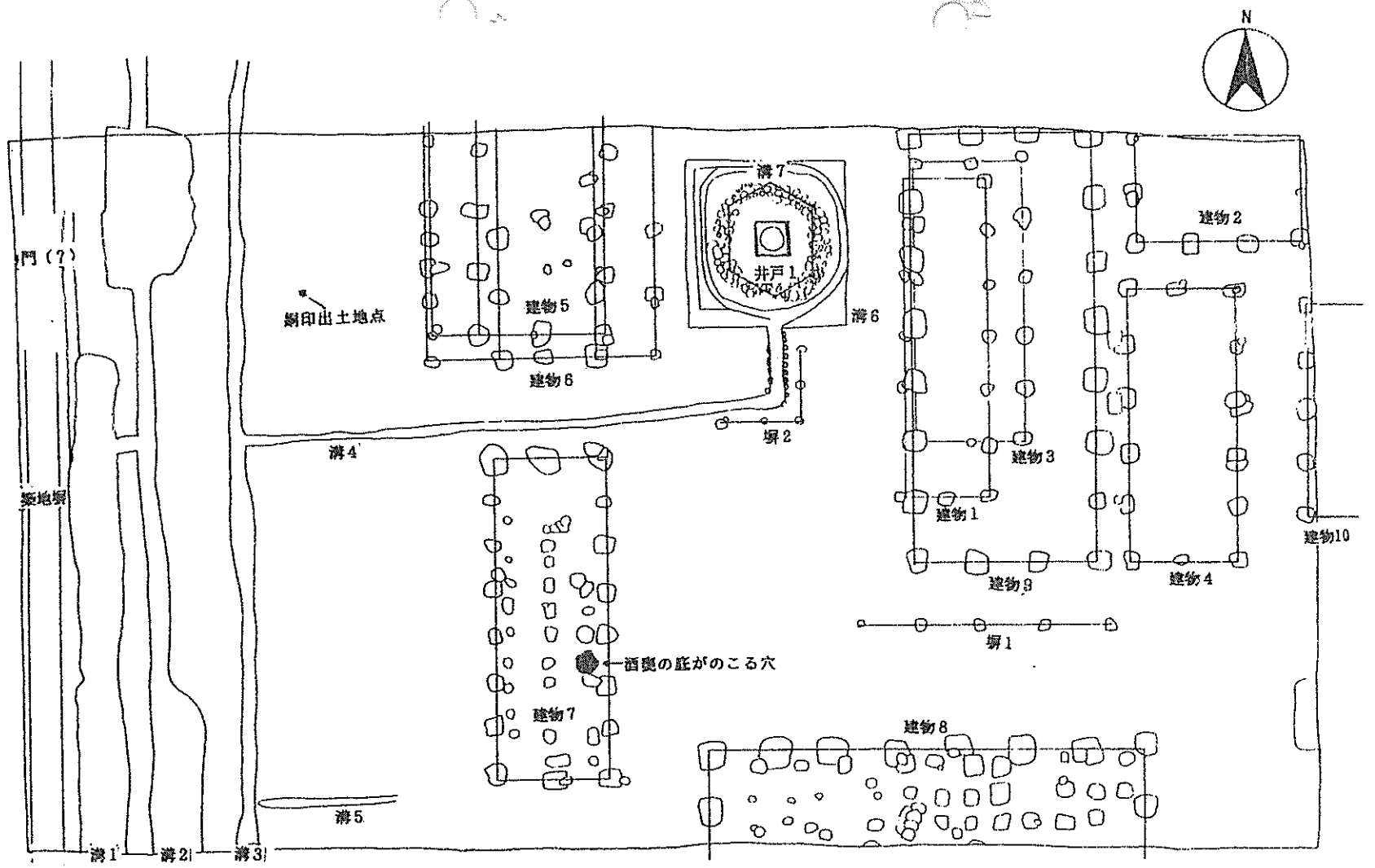


図3 第241次調査区遺構平面図 (1:300)

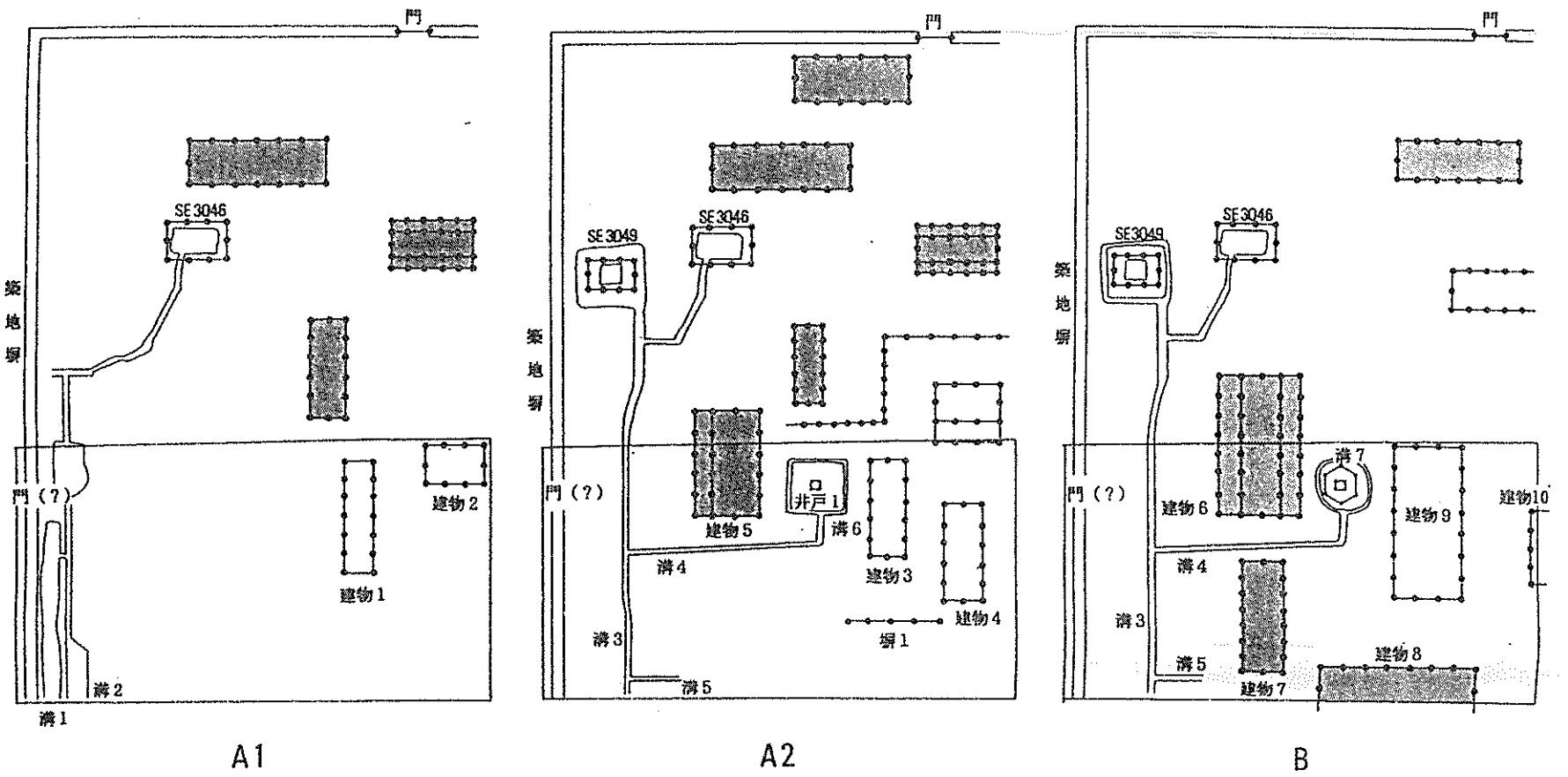
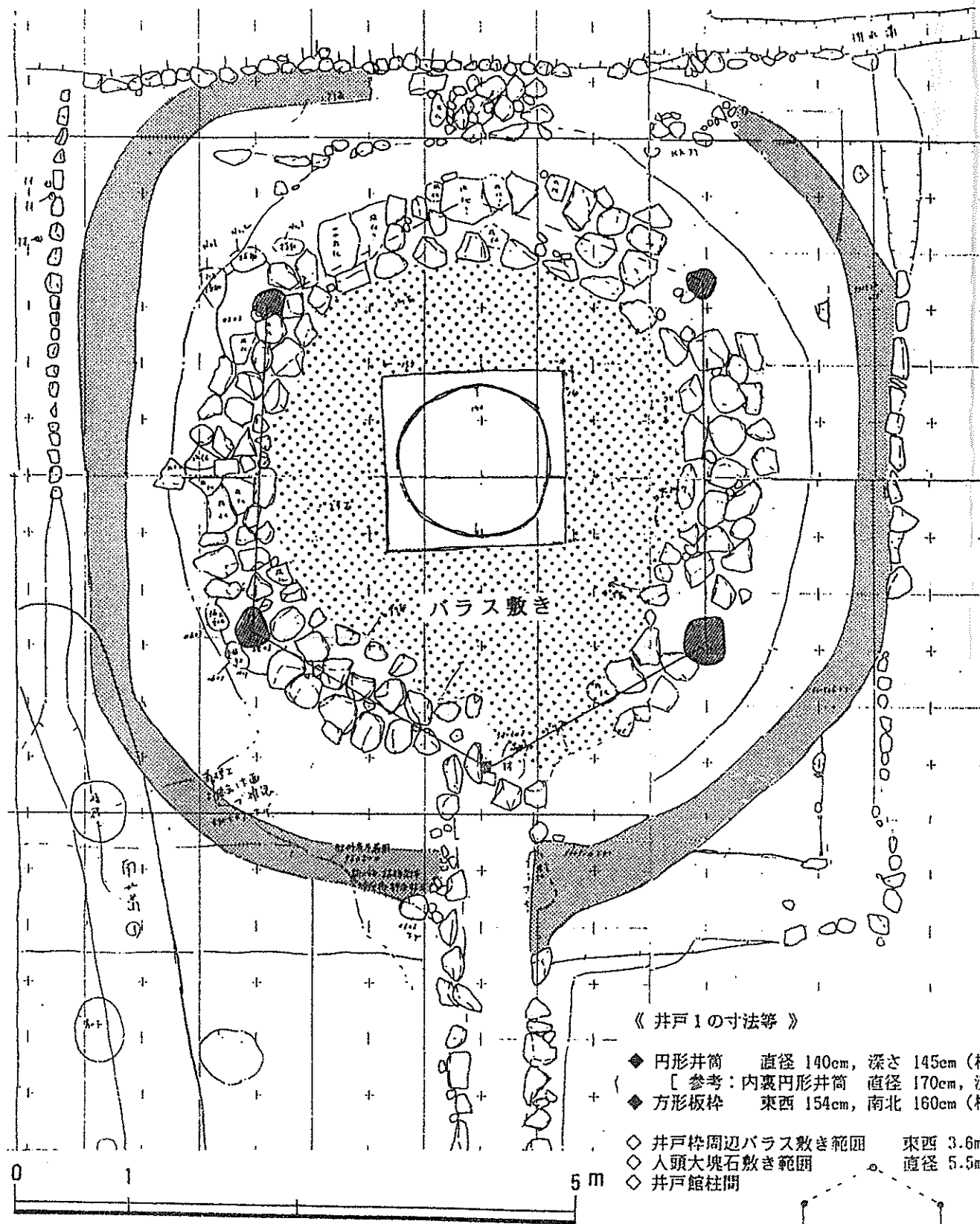


図4 造酒司 [第22・182・241調査区] の遺構変遷図 (1:900)

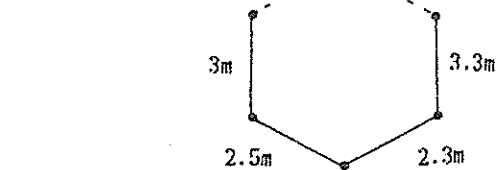
A1: 奈良時代前半前期 A2: 奈良時代前半後期 B: 奈良時代後半  
 トーンあり: 酒甕のある建物 トーンなし: 酒甕のない建物



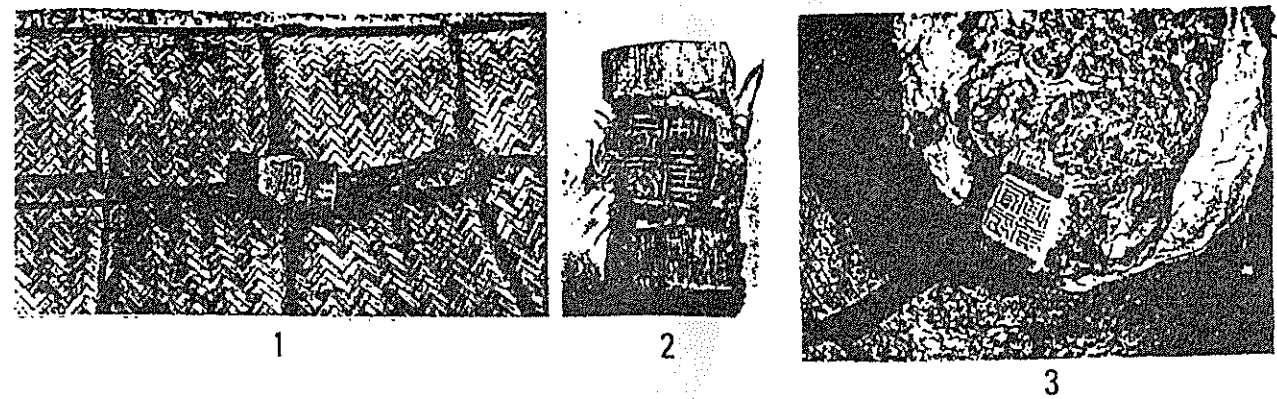
《 井戸1の寸法等 》

- ◆ 円形井筒 直径 140cm, 深さ 145cm (材種 スギ)  
[ 参考: 内裏円形井筒 直径 170cm, 深さ 2.1m (材種 スギ) ]
- ◆ 方形板枠 東西 154cm, 南北 160cm (材種 ヒノキ)

- ◇ 井戸枠周辺ガラス敷き範囲 東西 3.6m, 南北 4m
- ◇ 人頭大塊石敷き範囲 直径 5.5m
- ◇ 井戸館柱間



- ◇ 外周石組範囲 東西 7.5m, 南北 8m



- 1 ~ 3 湖南省長沙馬王堆出土封泥
- 4 ~ 6 日本の出土古印
- 7 周防鑄銭司跡出土粘土板
- 8 唐大明宮出土封泥

「御笠印」	「遠賀印」	「山邊郡印」
4	5	6
福岡県 太宰府町国分出土	福岡県 観世音寺遺跡出土	福岡県 十文字 瀬台遺跡出土

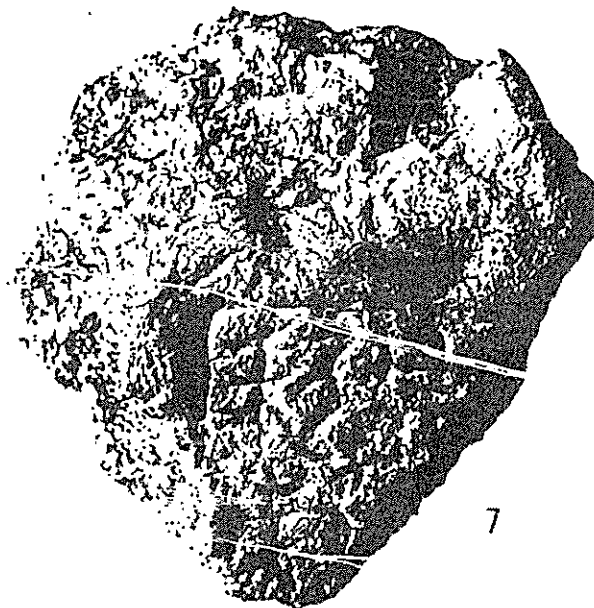


図6 銅印および封泥の関係資料

図5 井戸1の平面図 [1:50] と寸法データ

